

社会科学を語る夏のワークショップ 2007

＜ヨーロッパ＞のいまを読み解く

2007年8月2日・3日

於・東京大学大学院経済学研究科一番教室（本郷キャンパス）

このたび、東京大学社会科学研究所は、「社会科学を語る夏のワークショップ」という新しい企画を立ち上げました。これは、「社会」について高校生に何をどう教えるべきかという課題に日々直面しておられる高校教員の皆さんに、私たちの研究の成果をお伝えしながら、同時に、私たちも高校教員の皆さんから、高校生の社会認識や、それにはたらきかける実践についてお教えいただき、相互に交流することを目的としたものです。

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」という言葉に表されるように、日本の社会経済システムの一面が国際的にも高く評価されていた1980年代を過ぎ、「失われた10年」と呼ばれた90年代を経て、日本の社会経済システムはどのような方向に向かうべきかが、あらゆる点で問われています。そのまま模倣すればよいモデルがどこかにありうるわけではありませんが、いくつかの「型」を取り出して比較し、それぞれの可能性と問題点とを明らかにしつつ参照するという思考方法は、依然として有効ではないでしょうか。

そのような「型」のひとつとして、アメリカの存在感が高まっています。これに対して、ヨーロッパがもうひとつの「型」をなしています。もちろん、ヨーロッパも決して一枚岩ではなく、その中にアメリカ的なものを志向する動きもあります。それらの点を含めて、高等学校の先生方とともに、「＜ヨーロッパ＞のいまを読み解く」試みに取り組みたいと思います。

 プログラム

8月2日(木)

9時30分 受付開始

10時20分 開会

10時30分～12時00分

「ドイツの戦後と日本の戦後」

広渡 清吾

13時30分～15時00分

「“右翼－左翼”が生まれ、今なお意味を持つ国：フランス」

宇野 重規

8月3日(金)

10時30分～12時00分

「福祉システムの北欧モデルをどう見るか」

大沢 真理

13時30分～15時00分

「ヨーロッパ統合：どこからどこへ」

平島 健司

15時15分～16時30分

総括討論

コーディネイター：宇野 重規・佐藤 香

17時00分～18時30分 懇親会

社会科学を語る夏のワークショップ 2007

<ヨーロッパ>のいまを読み解く

講義内容・講師紹介（1日目）

「ドイツの戦後と日本の戦後」

第2次世界大戦の敗戦国としてのドイツと日本は、そのような歴史と経済大国としての復興のゆえに多くの共通の課題に直面してきたが、課題への答え方には相違も少なくない。「ドイツの戦後」から、日本はどのような示唆を得ることができるだろうか。



広渡 清吾（ひろわたり・せいご）

社会科学研究所教授
専門分野 ドイツ法・比較法社会論
主要著作

『比較法社会論—日本とドイツを中心に』放送大学教育振興会、2007年
『統一ドイツの法変動—統一の1つの決算』有信堂、1996年
『二つの戦後社会と法の間—日本と西ドイツ』大蔵省出版局、1990年
『法律からの自由と逃避—ワイマル共和制下の私法学』日本評論社、1986年

ひとこと

戦後60年を経て、日本国憲法の帰趨も含め、日本社会の今後の行方が様々に語られています。このなかで、私自身は、「戦後社会」というコンセプトにこだわって、日本の来し方・行く末を考えようとしています。その際に、日本と比較する対象としてドイツを取り上げます。「戦後レジームからの脱却」という現首相の主張のもつ「歴史的な意味」をはっきりさせてみたいと思います。みなさんとの議論を楽しみにしています。

「“右翼—左翼”が生まれ、今なお意味を持つ国：フランス」

フランスは、「右翼」と「左翼」とを対比する政治的観念が生まれた国であるだけでなく、最近の大統領選挙でも見られたように、それが今なお意味のあるものとして生きている国である。このフランスを例に、「右翼」とは何か、「左翼」とは何か、それらの対比は今なお意味をもっているのか、について考える。



宇野 重規（うの・しげき）

社会科学研究所准教授
専門分野 フランス政治思想史、現代政治哲学
主要著作

『トクヴィル 平等と不平等の理論家』講談社選書メチエ、2007年
『政治哲学へ—現代フランスとの対話』東京大学出版会、2004年
『デモクラシーを生きる—トクヴィルにおける政治の再発見』創文社、1998年

ひとこと

「右翼って何ですか？ 街宣車でかなり立てている人ですか？」とか、「左翼って何ですか？ アブナイ人たちですか？」というような質問を生徒から受けて困ったことはありませんか。「いや、そうじゃなくて…」と答えかけて、でも、いざきちんと説明するとなるとちょっと難しい、なんていう思いをされたことはありませんか。このワークショップで、これらの言葉がはたして過去に何を意味してきたのか、これから何を意味するのか、ちょっと踏み込んで考えてみたいと思います。

社会科学を語る夏のワークショップ 2007

<ヨーロッパ>のいまを読み解く

講義内容・講師紹介 (2日目)

「福祉システムの北欧モデルをどう見るか」

福祉システムの国際比較にかんする理論では、アメリカ、大陸ヨーロッパ、北欧の3つを取り出して対比する考え方が有力である。このような対比のなかで、北欧モデルはどのような可能性と問題点をもっているのだろうか。また、日本はどこに位置づけられるのだろうか。



大沢 真理 (おおさわ・まり)

社会科学研究所教授
専門分野 社会政策の比較ジェンダー分析
主要著作

『生活の協同—排除を超えてともに生きる社会へ』(編著) 日本評論社、2007年

『現代日本の生活保障システム 座標とゆくえ』岩波書店、2007年

Walby, S., H. Gottfried, K. Gottschall and Mari Osawa (eds.) *Gendering the Knowledge Economy, Comparative Perspectives*. Basingstoke and New York: PalgraveMacmillan, 2007

川口清史・大沢真理編『市民がつくるくらしのセーフティネット 信頼と安心のコミュニティをめざして』日本評論社、2004年

ひとこと

ワーキングプアや「宙に浮いた」年金、ワーク・ライフ・バランスなど、社会政策が身近な話題になっています。異なる社会の状況や歴史的経緯を踏まえ、「ジェンダー(社会的文化的に形成された性別)」に注意することで、視界はずっとはっきりしてくるはず。ヨーロッパの経験からとくに多くを学ぶことができるでしょう。

「ヨーロッパ統合:どこからどこへ」

「東アジア共同体」という名前で、地域的な連携・統合を模索する動きが強まっている。もちろん、連携・統合の中味も、そこに含まれるべき国の範囲も定まっているわけではない。それでは、欧州連合という形で壮大な実験を行なっているヨーロッパの統合は、どのような歩みをたどって今日に至り、今後どこへ行こうとしているのだろうか。



平島 健司 (ひらしま・けんじ)

社会科学研究所教授
専門分野 比較政治、ドイツ・ヨーロッパ政治
主要著作

『新訂ヨーロッパ政治史』(共著) 放送大学教育振興会、2005年

『EUは国家を超えられるか』岩波書店、2004年

『ドイツ現代政治』東京大学出版会、1994年

ひとこと

さまざまな地域的連携の動きが、東アジア地域においても活発化する現在、EU(欧州連合)を、単なる時事問題や異文化理解の対象として扱うだけではすまされなくなってきました。27カ国にまで拡大した地域共同体が、数多くの難題を抱えながらも「憲法条約」の批准に向けて歩みを新たにしようとしています。EUが、現代の政治と政治観に突きつける知的挑戦に真正面から取り組んでみませんか。

社会科学を語る夏のワークショップ 2007

<ヨーロッパ>のいまを読み解く

司会・コーディネーター紹介



佐藤 香（さとう・かおる）

社会科学研究所准教授
専門分野 計量歴史社会学、教育社会学、社会調査
主要著作

『こんなに役立つ数学入門』（共著）ちくま新書、2007年

『希望学』（共著）中公新書ラクレ、2006年

『社会移動の歴史社会学』東洋館、2004年

ひとこと

この10年ほど、高校生の進路を中心的なテーマとして、高校をフィールドとする社会調査を継続的におこなってきました。さまざまな高校で先生方からもお話をうかがってきましたが、その最後には、必ずといっていいほど、「日本社会は、どこに向かおうとしているのでしょうか」という話題が出ます。ヨーロッパを鏡としながら、日本社会の来し方行く末について、皆さまと議論ができればと考えています。

宇野 重規（うの・しげき）

※1日目の講師紹介をご参照ください。

- <対象> 高等学校教員（担当科目は問いません）
<人数> 150名
<参加費> 無料（懇親会は3000円）
<申し込み方法> 社会科学研究所ホームページにおいて7月1日から受付を開始します。
<http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/>からアクセスしてください。
<問い合わせ先> 東京大学社会科学研究所 庶務分野
Tel 03-5841-4904 Fax 03-5841-4905
<開催場所> 東京大学大学院経済学研究科一番教室（本郷キャンパス）

本郷キャンパスマップ（会場付近）

